

# 令和6年度 南風原町地域公共交通会議 第2回

## 【デマンド利用者及び住民アンケート調査結果】

- 
1. アンケート調査概要
  2. AIオンデマンド交通利用者アンケート調査結果
  3. 住民アンケート調査結果
  4. アンケート調査結果からみえる効果と課題
- 

令和7年2月6日  
南風原町 まちづくり振興課

- AIオンデマンド交通利用者及び本町住民(2,500人)を対象としたアンケート調査を実施した
- 各調査の実施概要を以下に示す

## (1) 利用者アンケート調査

項目	内容
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 7月1日の実証運行開始～11月30日までの電話予約者</li> <li>• 7月1日の実証運行開始～9月30日までのアプリ予約及びキャンセル者</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アプリ予約者については、予約時にアンケートへ回答して、システム管理者が回収したデータを集計する</li> <li>• 電話予約者については、モビドライバーがアプリによる乗車によるものか、電話によるものかをシステム上把握したうえ、電話予約者に車内で手渡しし、郵送回収する</li> </ul>
調査実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和6年7月1日～9月30日の3か月間、～11月30日の5か月間</li> </ul>
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者の属性(年代、性別、居住地域、運転免許証の有無、車の保有状況)</li> <li>• モビ利用目的</li> <li>• モビの評価(料金の妥当性、利用時の難易度、運行時間帯に対する意見、利用時の満足度)</li> <li>• モビを利用するようになってからの行動変容(外出回数の変化、モビが無かった場合の交通手段、外出目的・外出先の変化)</li> <li>• モビ実証運行の継続及び本格導入に対する意見 等</li> </ul>

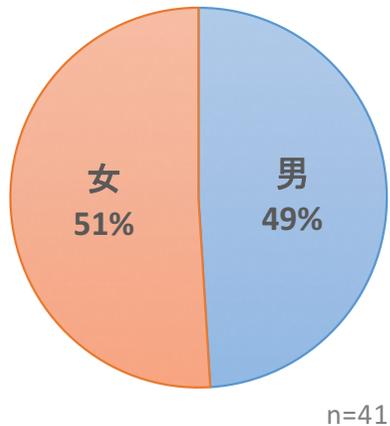
## (2) 住民アンケート調査

項目	内容
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 住民基本台帳より無作為抽出された15歳以上の南風原町民2,500人</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 郵送配布、郵送回収</li> </ul>
調査実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 令和6年10月1日～11月30日の2か月間</li> </ul>
把握項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者の属性(年代、性別、居住地域、運転免許証の有無)</li> <li>• 普段の公共交通の利用状況(路線バスの利用の有無、利用頻度、利用目的)</li> <li>• モビの認知状況について(認知度、運行時間帯・運賃等の概要についての認識状況)</li> <li>• モビの利用状況(利用の有無と利用頻度、利用する理由、利用しない理由)</li> <li>• モビの今後の運行について(継続運行の是非とその理由、町民一人当たりに置き換えた毎月の町の財政負担額の上限) 等</li> </ul>
回収率	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 737票/2,500票(29.4%)</li> </ul>

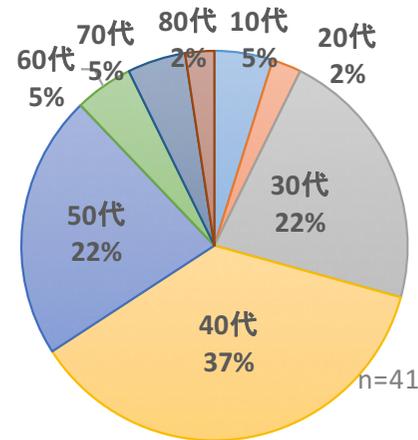
## (1) 利用者属性

- 利用アンケート調査結果より回答者の約80%が30～50代、居住地は町内が93%となっている
- 回答者の81%が運転免許を保有、また、自分専用の車を保有しているが44%となっている

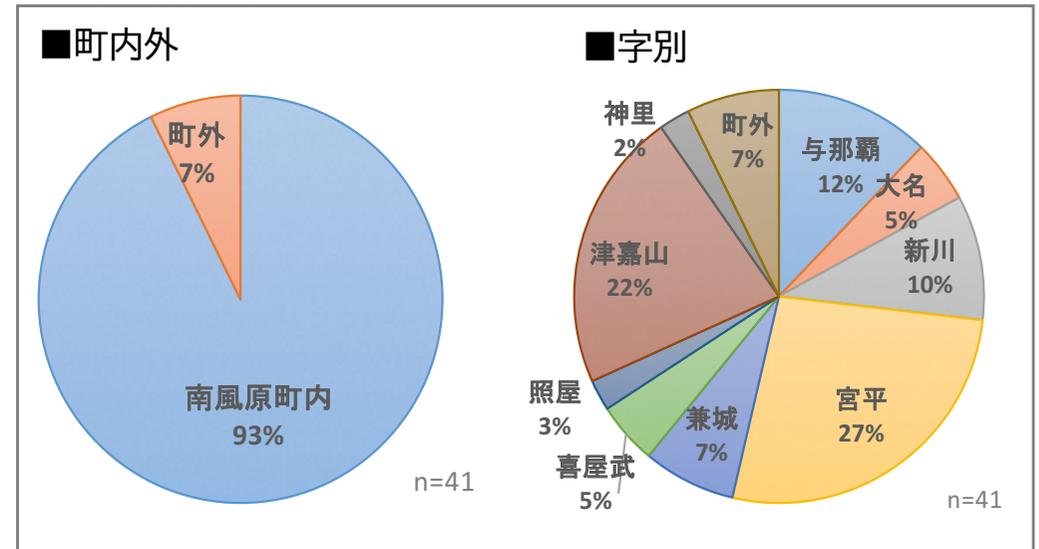
### ① 性別



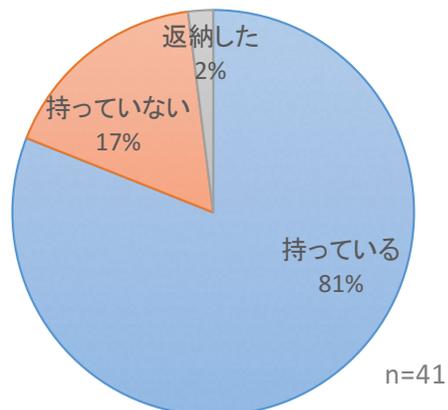
### ② 年代



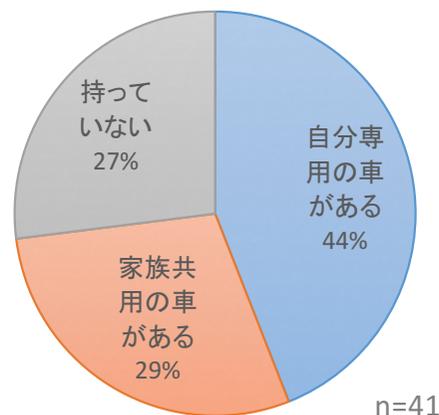
### ③ 居住地



### ④ 運転免許の保有



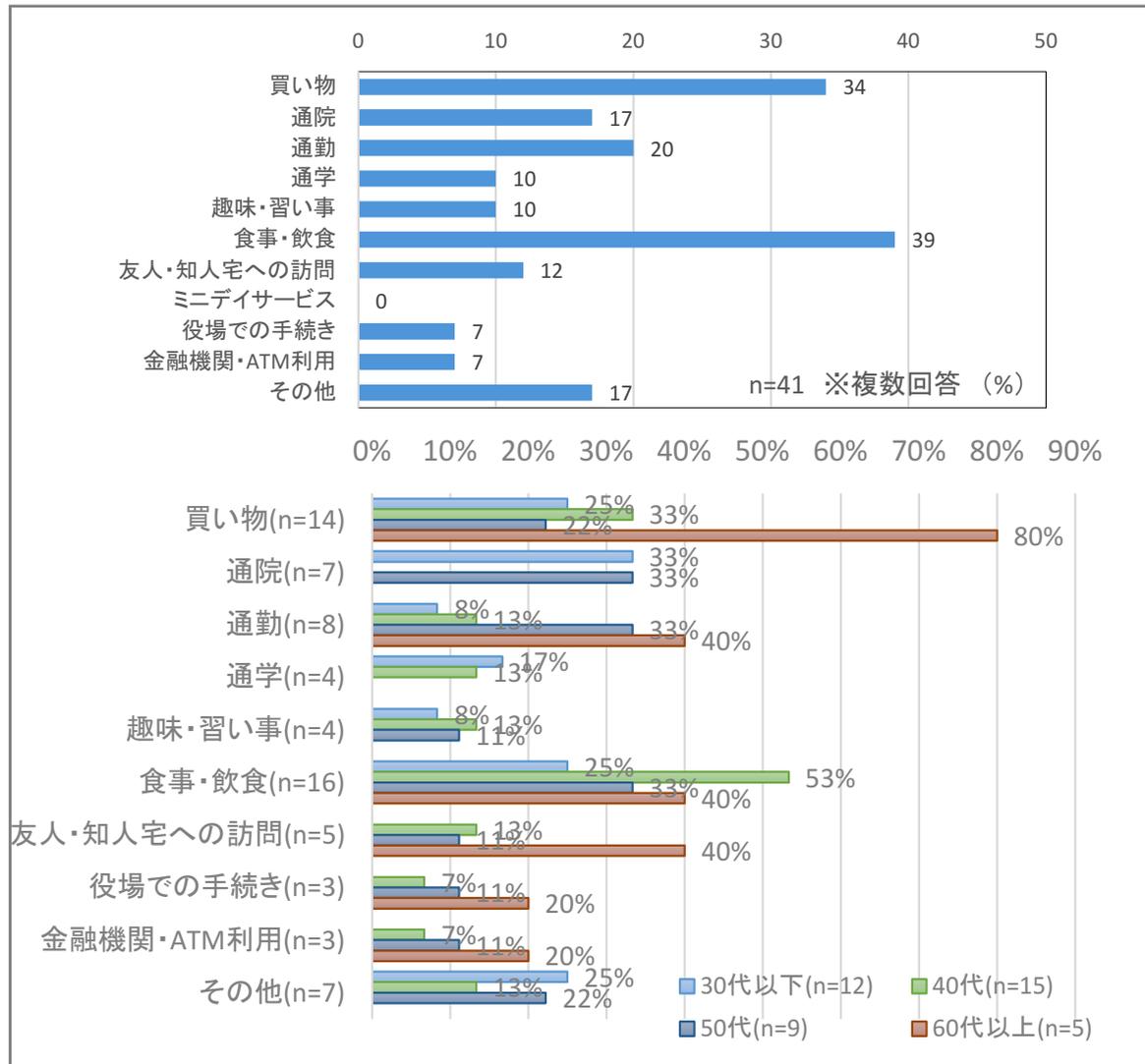
### ⑤ 自家用車の保有



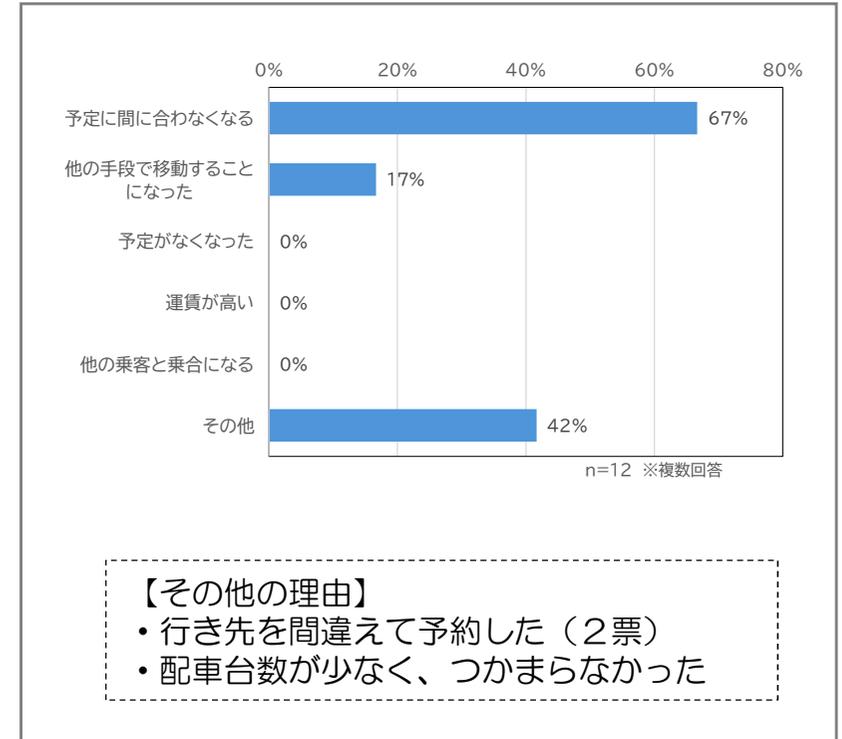
## (2) 利用目的及び予約キャンセル

- 利用目的では買物、飲食が多く、買物では60代以上、飲食では40代の利用が多い
- 利用予約後のキャンセルもみられ、その理由として予定に間に合わない、移動手段の変更等があげられている

### ① 利用目的



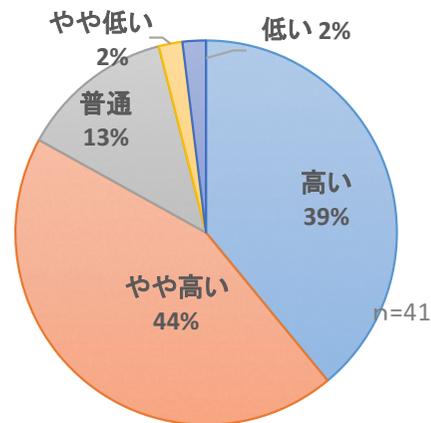
### ② 予約キャンセル



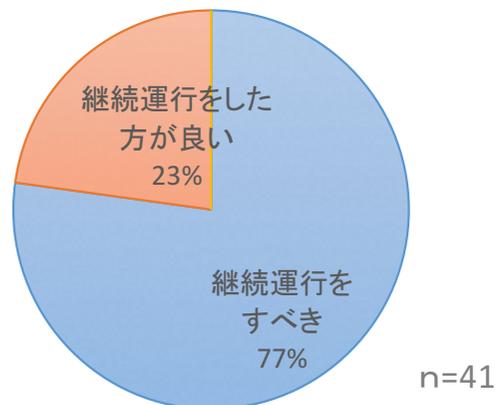
## (3) AIオンデマンド交通の評価

- AIオンデマンド交通運行における評価では満足度が83%が高く、継続運行への意向も高い
- AIオンデマンド交通の運行開始後に外出回数の増加が29%、60歳以上の「ちょっとした用事」や「町内での買物」等の外出機会の増加がみられる

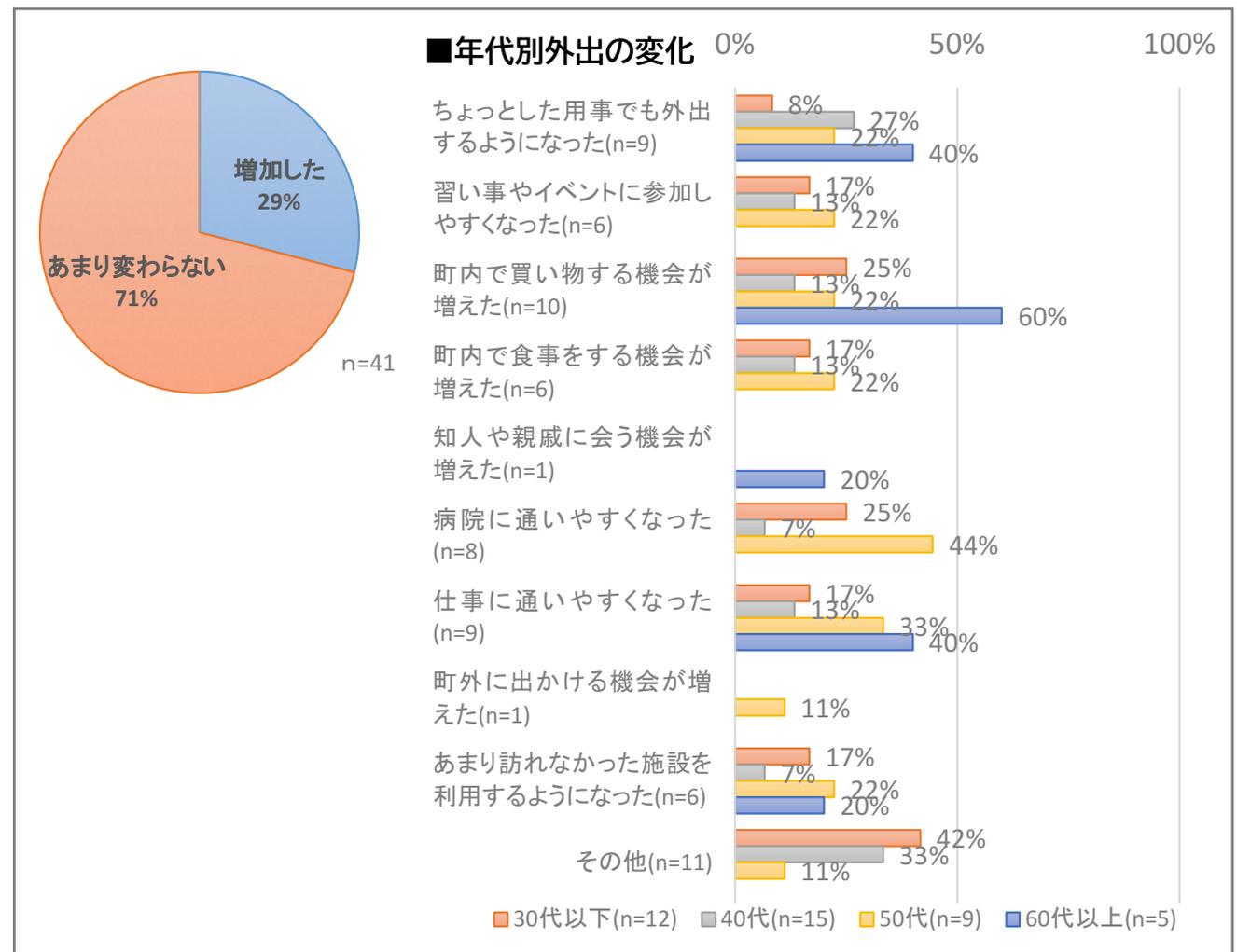
### ① AIオンデマンド交通の満足度



### ② 継続運行の意向



### ③ 外出回数の変化

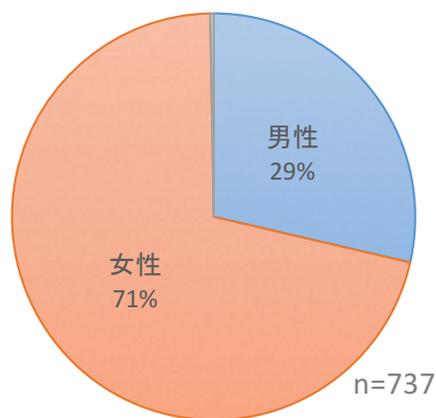


# 3.住民アンケート調査結果

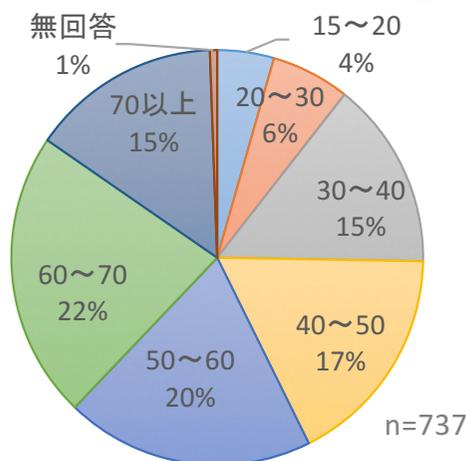
## (1) 回答者属性

- 住民アンケート調査の回収率は29.4% (737票/2,500票)、60歳以上は回答者の37%となっているが、運転免許の返納は2%と少ない
- 自家用車の保有状況では、全体の90%が自家用車(専用、共用)を保有している

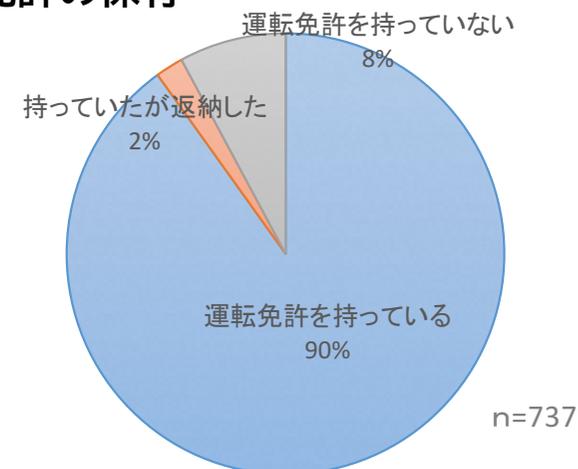
### ① 性別



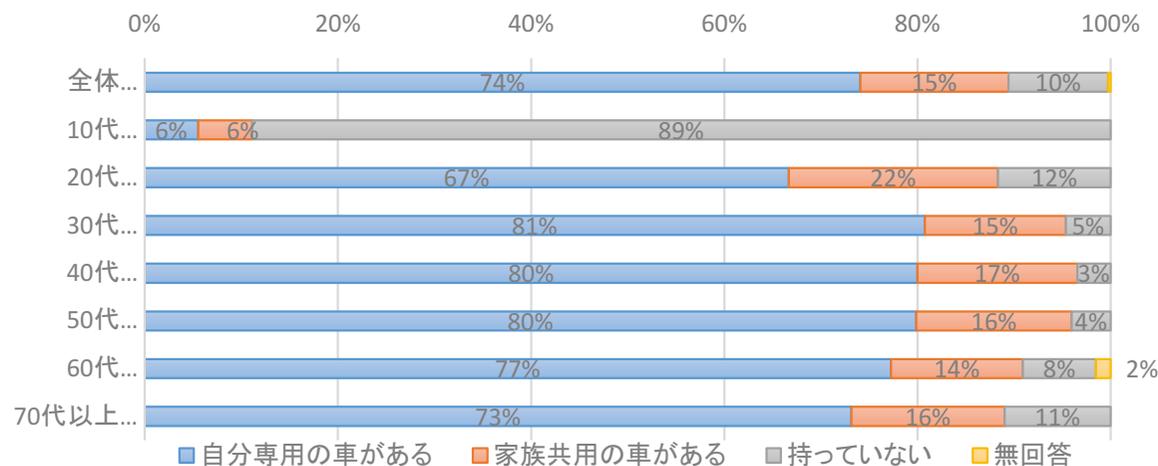
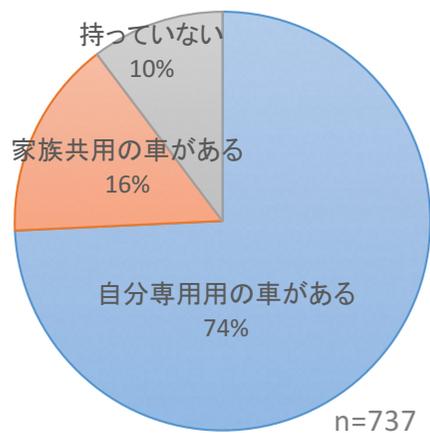
### ② 年齢



### ③ 運転免許の保有



### ④ 車の保有状況

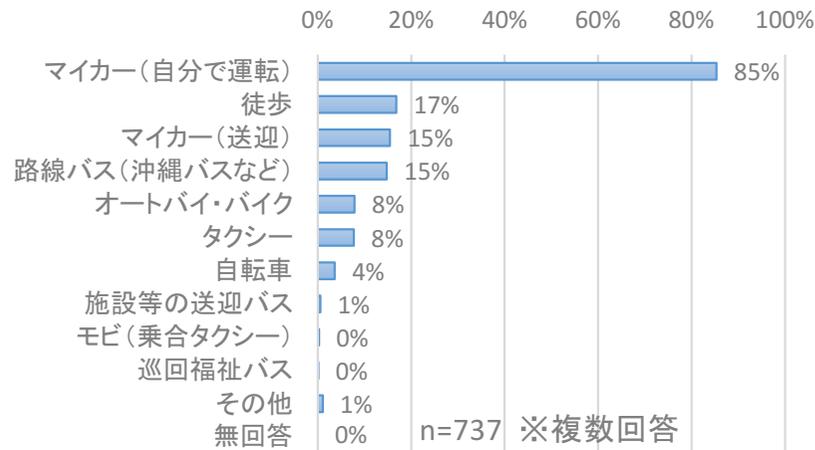


# 3.住民アンケート調査結果

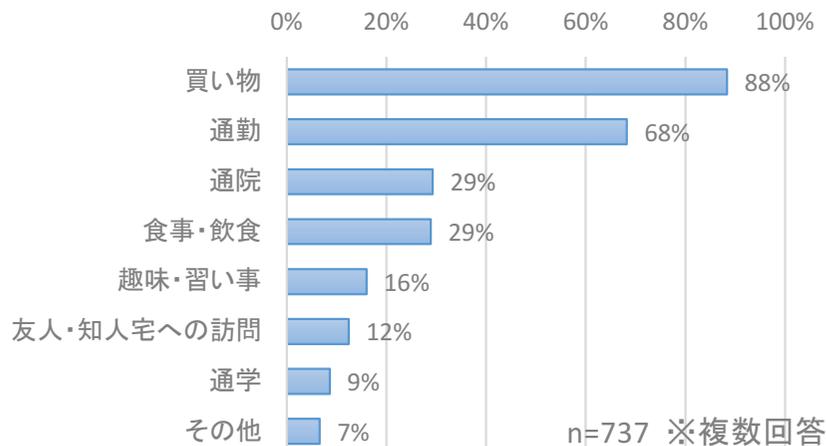
## (2) 日常移動

- 日常の主な移動手段85%が自家用車、路線バス利用は15%、タクシー8%、また、移動目的は買物、通勤が多く、次いで通院、飲食となっている
- 公共交通の利用頻度では、全体の79%が1カ月以上公共交通を利用していない

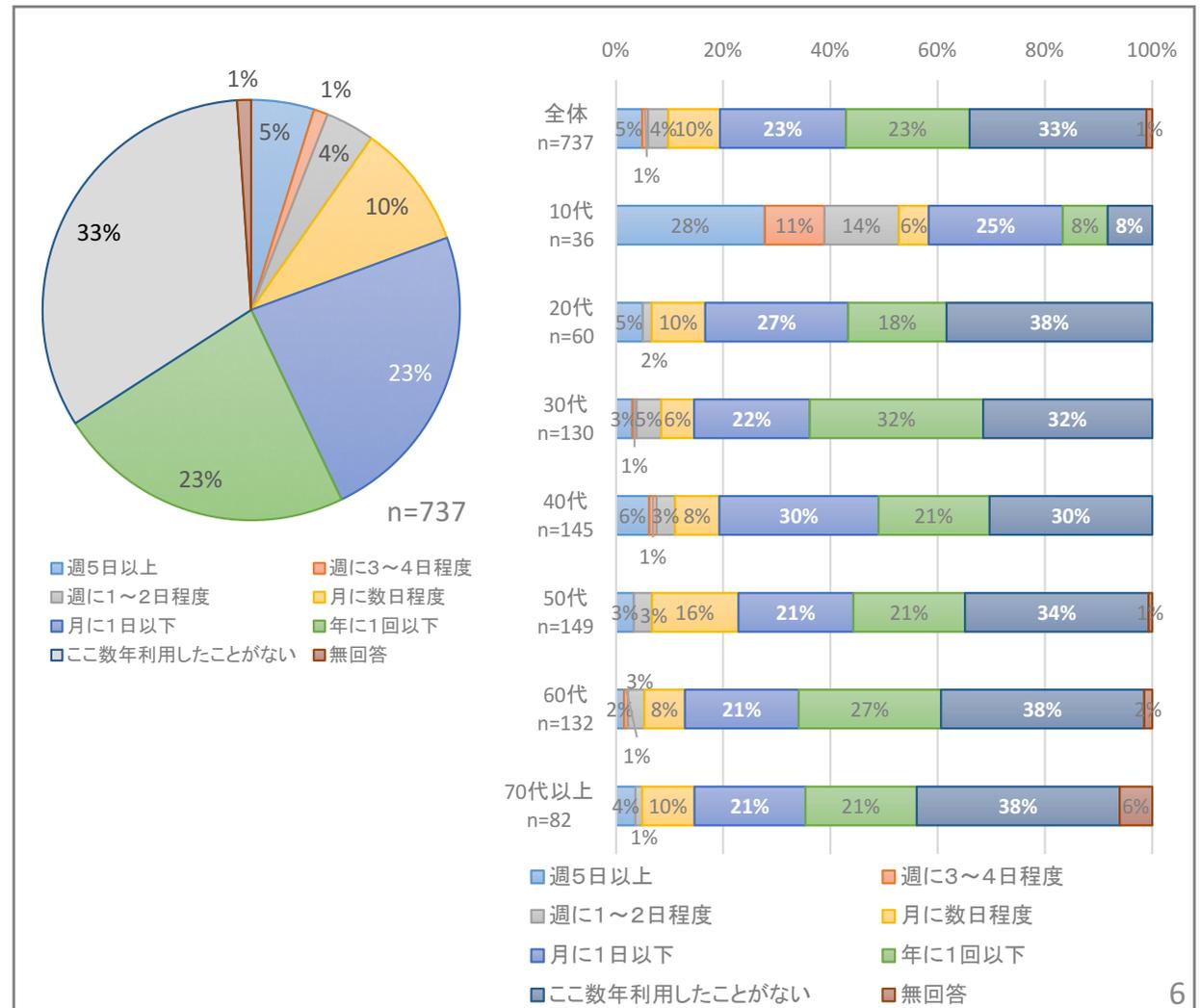
### ① 日常の移動手段



### ② 日常の移動目的



### ③ 公共交通の利用頻度

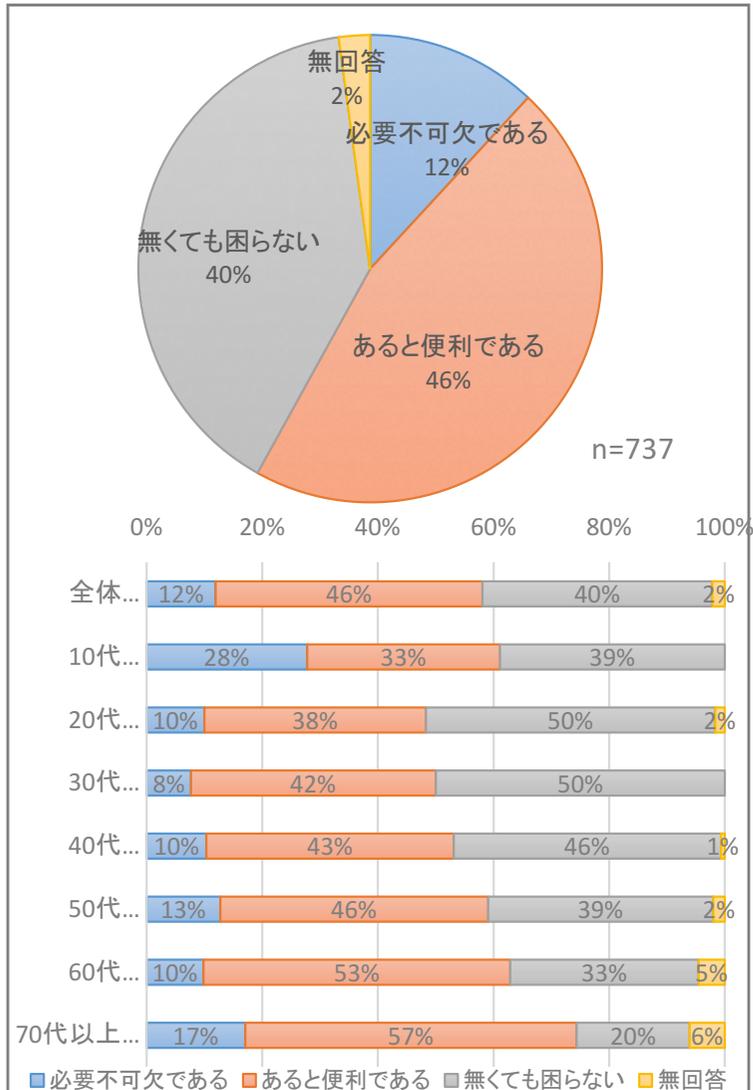


# 3.住民アンケート調査結果

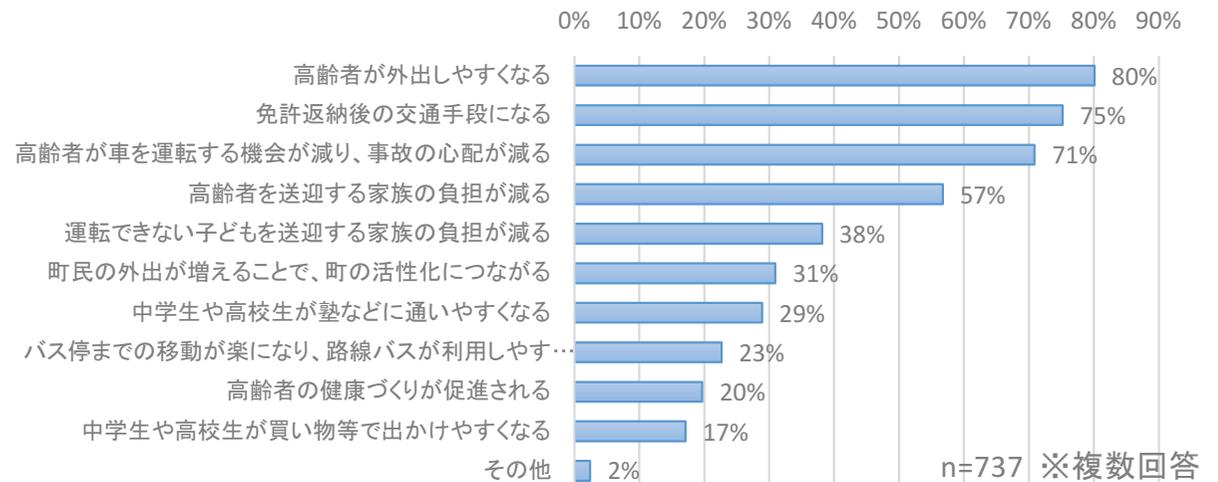
## (3) 公共交通に関する意識

- 回答者の40%が「公共交通がなくても困らない」と回答しており、20~40代にその意識が高い
- AIオンデマンド交通の導入により、高齢者へのメリット(外出支援、交通事故の減少、運転免許返納後の移動手段)が高いと指摘されているが、同交通に対する認知度はまだ低い

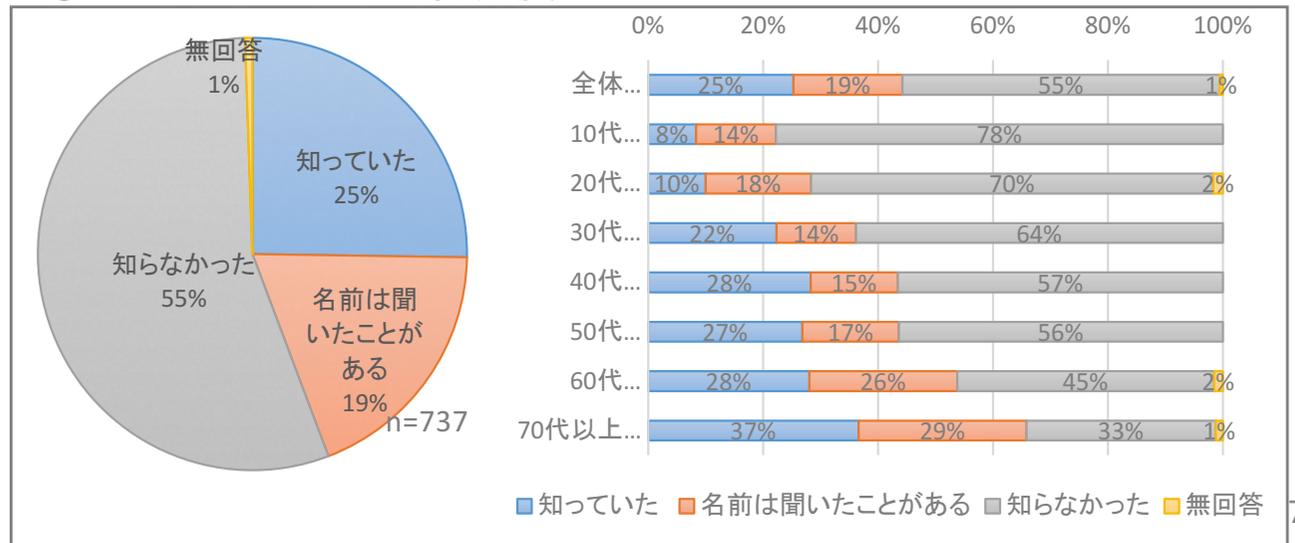
### ① 公共交通への認識



### ② AIオンデマンド交通の運行導入のメリット



### ③ AIオンデマンドの認知度



## (4) モビを利用しない人の推察

- 自由意見に多くの要望が寄せられて「運行エリアの拡大」「ドアtoドアでの運行」「運行時間帯の繰り上げ」「運賃値下げ」などが要望が記載
- 効果として、「高齢者の外出機会の増加」「家族の送迎の負担軽減」などがあげられており、継続運行を望む意見が多くあげられている

### ■利用が進んでいない要因（何故モビを利用しないのか）

- モビの主な利用対象と考えられる高齢者への周知不足
- 高齢者のアプリ予約への抵抗
- 乗合利用に対する不安
- 台数不足により予約できなかった方が離れていった
- 自動車利用が多く、自動車保有率・免許証の保有率が多い
- 利用時間帯が合わない
- 他の公共交通（路線バス、モノレール）との接続が悪い



### ■継続運行に向けて（どうしたら利用してもらえるか）

- 高齢者層を対象にスマホ教室を開催し、アプリによる予約方法及び電話予約による予約方法を教示
- 台数の増加及び時間帯における台数の調整、運行時間帯の再検討
- 運行時間帯の見直し、乗合いしやすいシステム及び環境の整備
- 地域の集まりの場を活用した乗り方教室の実施
- モビの認知度を高める（フルラッピング等）
- モビの利用度を高める（スーパー等でのクーポン配布等）
- 沖縄都市モノレール首里駅への乗降場所の追加

- 調査結果より、実証運行における効果、課題の整理を行い以下に示す

## (1) 効果

- モビの運行により、高齢者が町内での買物、通院、用事等の移動が手段として利用されており、外出機会の創出に繋がっている。(アンケート自由意見より)
- 高齢者がスポーツ施設への移動として継続して利用されていることから、健康増進へ繋がっている

## (2) 課題の整理

	<p><b>■モビ利用者像・利用シーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 車を所有していない学生や高齢者、30代(通勤、買い物、食事・飲食、子供の送迎などをする女性)のバスや徒歩に変わる、比較的手軽に利用可能な交通システムとして推進する必要がある。</li> <li>● 相乗り率を高めるために相乗り者の利用料金・システム及びリピーターの運賃体系を検討する余地がある。</li> <li>● 高齢者の利用が低い傾向にあるため、高齢者の利用が多いコールセンターとの意思疎通の円滑化を図るとともに、アプリ予約に慣れてもらう仕組みの検討が必要である。</li> <li>● 認知度が低く、特に若者及び中年層への周知が必要である。</li> <li>● 予約方法に「事前予約システム」の追加を検討し利用者層を拡大する必要がある。</li> </ul>
(1)	
	<p>満足な点・不満足な点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の利用向上を高めるための、アプリ予約方法の支援策及びコールセンターの運営及び設置場所を検討する必要がある。</li> <li>● 利用者ニーズ(運行時間帯、運行台数等)への対応する検討が必要である。</li> </ul>
(2)	
	<p>公共交通の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通の利用頻度が低い地域、路線バス不便地域において、モビの活用方法を検討し利用促進を図る必要がある。</li> <li>● 公共交通を必要としている年代(10代、60代)へのモビ利用促進を図る必要がある。</li> <li>● モノレール駅等への乗降場所設置を検討する必要がある。</li> </ul>
(3)	
	<p>モビの継続運行に対する意向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全利用者が運行の継続、運行継続時の利用意向がともに高いことから、継続運行へ向けた取組みが必要である。</li> <li>● 利用目的別では、早朝・夜間の利用ニーズ(通勤・通学・通院)への対応に検討の余地がある。</li> </ul>
(4)	